

中小企業景況調査報告書

平成 30 年 1 ～ 3 月期 実績

平成 30 年 4 ～ 6 月期 見通し






始良市商工会

(平成 30 年 3 月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられている D・I 指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

1. 調査対象期間 平成 30 年 1～3 月期を対象とし、調査時点は平成 30 年 3 月 1 日とした。
平成 30 年 4～6 月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 15 企業（※始良市の 15 企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：3 企業 建設業：2 企業 小売業：4 企業 サービス業：6 企業

県内産業別業況 DI

		製造業	建設業	小売業	サービス業
対前年 同月比	29 年 1 月～3 月期	 ▲33.3	 0.0	 ▲50.0	 ▲33.3
	29 年 4 月～6 月期	 33.3	 50.0	 ▲25.0	 0.0
	29 年 7 月～9 月期	 0.0	 50.0	 ▲100.0	 ▲33.3
	29 年 10 月～12 月期	 33.3	 50.0	 ▲50.0	 ▲50.0
	30 年 1 月～3 月期	 0.0	 0.0	 ▲75.0	 ▲33.3
	来期見通し(4～6 月期)	 0.0	 0.0	 ▲75.0	 ▲16.6

総合（業況）

前年同期（平成 29 年 1 月～3 月期）と比較した今期（平成 30 年 1 月～3 月期）の業況は、製造業 0.0（前年同期 33.3 ポイント改善）、建設業 0.0（前年同期と変わらず）、小売業 ▲75.0（前年同期 25.0 ポイント悪化）、サービス業 ▲33.3（前年同期と変わらず）となった。

今期の状況は、前年同期と比較して、製造業が改善の方向に進んでおり、建設業もまあまあの状況を維持している。しかしながら、小売業・サービスとも改善の兆しが見えず厳しい状況が窺える。来季の見通しもサービス業に改善の兆候が見えるものの小売業の不振が顕著である。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 3 企業

調査対象企業内訳：食料品(1)，窯業・土石製品(1)，衣類・その他繊維製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
29年1月～3月期		▲33.3		▲33.3		▲33.3		▲33.3
29年4月～6月期		66.6		33.3		0.0		33.3
29年7月～9月期		0.0		0.0		0.0		0.0
29年10月～12月期		66.6		0.0		▲33.3		33.3
30年1月～3月期		▲33.3		▲33.3		▲33.3		0.0
来期見通し(4～6月期)		▲33.3		0.0		▲66.6		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・同業者の廃業撤退及び海外生産の撤退等で引き合いが増えているが、加工賃が低いままでの生産を実施している。人件費、材料費及び電力費などの経費負担も増加し、加工賃のみが据え置きのため、工場運営が厳しい状況にある。
- ・仕入価格は上昇したが、売価が思うように上げられず、また人員不足を補う為、派遣を利用した結果、思ったような利益が残っていない。この状況を好転させる為の新商品販売を来期に計画しており、来期は多少好転するものと思われる。

経営上の問題点

- ・人件費の増加、原材料価格の上昇、製品(加工)単価の低下・上昇難が上位を占める。生産設備の不足・老朽化、取引条件の悪化を問題とする企業もある。

【建設業】 有効回答数 2 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(1)，設備工事業(1)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
29年1月～3月期		▲50.0		0.0		0.0		0.0
29年4月～6月期		50.0		0.0		0.0		50.0
29年7月～9月期		0.0		0.0		0.0		50.0
29年10月～12月期		0.0		50.0		0.0		50.0
30年1月～3月期		▲50.0		0.0		0.0		0.0
来期見通し(4～6月期)		0.0		0.0		0.0		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・特になし

経営上の問題点

- ・官公需要の停滞、人件費の増加、従業員の確保難が上位を占め、民間需要の停滞、熟練技術者の確保難を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 4 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(2)，織物・衣服・身の回り品(1)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
29年1月～3月期		▲50.0		▲50.0		▲50.0		▲50.0
29年4月～6月期		0.0		▲25.0		▲25.0		▲25.0
29年7月～9月期		▲100.0		▲100.0		▲75.0		▲100.0
29年10月～12月期		▲75.0		▲50.0		▲50.0		▲50.0
30年1月～3月期		▲50.0		▲75.0		▲50.0		▲75.0
来期見通し(4～6月期)		▲50.0		▲75.0		▲50.0		▲75.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・大型店舗進出により、客数が減少している。

経営上の問題点

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化、同業者の進出、購買力の他地域への流出が上位を占め、次に消費者ニーズの変化への対応、需要の停滞、駐車場の確保難、商品在庫の過剰を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 6 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(4)，飲食店(2)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値	アイコン	数値
29年1月～3月期		▲16.6		▲16.6		▲16.6		▲33.3
29年4月～6月期		0.0		16.6		0.0		0.0
29年7月～9月期		▲16.6		▲33.3		▲16.6		▲33.3
29年10月～12月期		▲16.6		▲50.0		▲50.0		▲50.0
30年1月～3月期		▲33.3		▲66.6		▲33.3		▲33.3
来期見通し(4～6月期)		▲16.6		▲50.0		0.0		▲16.6

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・従業員の確保難は、ずっと続いている。また年末からは仕入単価も上がっており、野菜は特に高い。生産効率を上げるための設備等はあるが、価格が高すぎて手が出ない。
- ・従業員を募集してもまったく来ないので、今の人数で業務ができるよう改革の途中であり、今のところ業績が悪い。春までには向上するよう努力したい。
- ・街に人がいなくなってきたので、土日などを利用してイベントを開き、なるべく街を知ってもらいたい。店の中に人が入って来てもらうよう誘導しないといけないと思います。
- ・需要に対しての企業努力が必要かなと思います。

経営上の問題点

- ・従業員の確保難、需要の停滞、大企業の進出による競争の激化、新規参入事業者の増加が上位を占め、また、利用者ニーズの変化への対応、店舗設備の峽隘・老朽化、人件費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題点としている企業もある。